

愛知県埋蔵文化財センターは、愛知県内で出土した埋蔵文化財の調査研究を通して、愛知県の歴史や名も無き先人たちの足跡を掘り起こすとともに、その成果を県民の皆さんに伝える役割を担っています。郷土への深い愛情は先人の遺産の継承があつてこそ育まれます。その一助となれるよう私たちが努めます。

さて、本年度の発掘調査は三河地域が中心になります。それぞれの遺跡が所在する地域の皆様には、発掘調査の最新情報を発掘ニュースや現地説明会でお伝えする予定です。それ以外の地域の皆様も当センターのホームページから発信する最新の情報に触れて頂き、是非現地説明会へもご参加ください。お待ちしております。

当センターは弥富市で、春・夏・秋にイベントを開催します。春は二〇一四年度の出土資料を、【埋蔵文化財新出土品展『やとみ新発見展』】として、今回は「山の考

古学」をテーマに公開します。出土品や解説をご覧になり、三河山間地の生活の様子を想像してみてください。夏には、センターの仕事を皆様にご理解して頂くためにバッタードッパーを実施します。合わせて楽しいワークショップも行います。秋には家族で楽しく参加できる発掘体験をします。皆さん一緒に出かけましょう。【連続歴史講座】では「海部の考古学」をテーマに、遺跡や遺物の特徴から海部地区の歴史を考えます。それにあわせて一部展示を行います。

さて、本年度の発掘調査は三河地域が中心になります。それぞれの遺跡が所在する地域の皆様には、発掘調査の最新情報を発掘ニュースや現地説明会でお伝えする予定です。それ以外の地域の皆様も当センターのホームページから発信する最新の情報に触れて頂き、是非現地説明会へもご参加ください。お待ちしております。

当センターは本年度も積極的な情報発信に努めます。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

## はじめに

愛知県埋蔵文化財センターは、愛知県内

で出土した埋蔵文化財の調査研究を通して、愛知県の歴史や名も無き先人たちの足跡を掘り起こすとともに、その成果を県民の皆さんに伝える役割を担っています。郷土への深い愛情は先人の遺産の継承があつてこそ育まれます。その一助となれるよう私たち

が努めます。

# 埋文桜ニュース

発行日：二〇一五年四月四日  
発行者：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017  
愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24

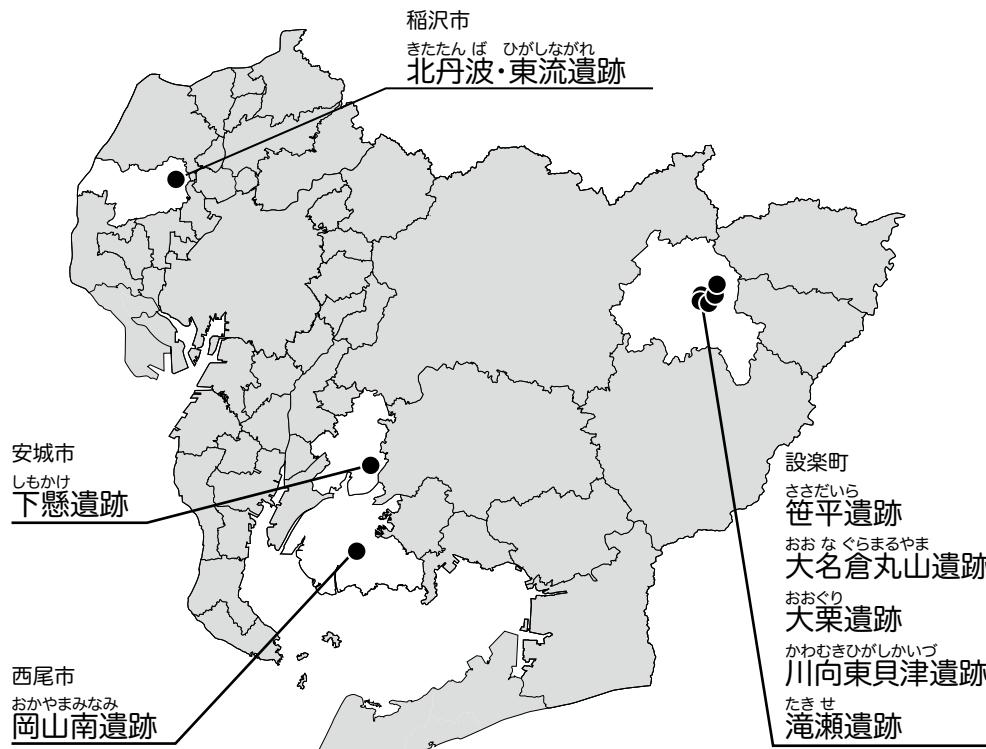
電話：0567-67-4163  
ファックス：0567-67-3054  
ホームページ：<http://www.maibun.com/>  
メールアドレス：[doki@maibun.com](mailto:doki@maibun.com)

秋の歴史講座 今年は6回開催！  
**海部の考古学**  
海部地域の考古学情報をお伝えします。  
6人の講師が解説。

2015考古学の祭典  
**考古学セミナー**  
名古屋市博物館にて開催！  
2015年11月29日(土) 30日(日)

平成27年度 発掘調査成果報告会  
**新設楽発見伝**  
平成28年3月開催予定！

## 平成27年度の調査予定遺跡





## 古墳時代の集落を確認 !!

大きな台石を見つかりました。



## 源義朝の伝承地の隣 平安時代を確認 !!



## 権六遺跡

名鉄野間駅の西側に位置しています。調査の結果、中世の掘立柱建物1棟、竪穴建物1棟、柱穴列4列以上、溝10条、土坑・柱穴多数と、江戸時代後期以後の井戸2基、溝2条、土坑多数などが確認できました。また出土遺物では、古墳時代前期後半から江戸時代にかけての土器などが見つかりました。

## 調査区は狭いけれど。



## 水入遺跡

水入遺跡は、平安十・十一年度に発掘調査が行われています。奈良・平安時代から鎌倉時代の集落遺跡です。今回は、豊田東ICの料金所の増設に伴う発掘調査でした。発掘調査では狭小な面積にも関わらず、多数の遺構が確認されました。遺物は少量しか認められませんでしたが、遺構が高密度で存在することが明らかになりました。

## 姫下遺跡

安城市姫小川町

今回の調査区は、この遺跡の南端を区切ると推定された旧河道よりも南側になります。調査の結果、古墳時代前半の竪穴建物や、平安時代の掘立柱建物跡などが確認され、集落が展開することが確認されました。なかでも一辺が10メートルを超える竪穴建物跡は、愛知県でもあまり見つかっていない最大級の大きさです。

## 寄島遺跡

安城市小川町

本年度の調査では、古墳時代以前の自然河道を確認しました。その河道の南側の自然堤防上に、古墳時代の竪穴建物跡を2棟検出しました。自然河道の北側では、古墳の周溝と推定される溝の続きと、方形状周溝墓が確認されました。姫下遺跡との境界にあたるE区で竪穴建物跡が見つかったことから、集落が姫下遺跡の方に展開して行くことが予想されます。

## 下懸遺跡

安城市小川町

今年度の調査では、主に古墳時代の溝群や小土坑が確認されました。溝群は幅40センチ、深さ20センチ程度の溝が数条、平行して走ります。これらの遺構群は、下懸遺跡と寄島遺跡で特徴的に見られるものです。このようないわゆる「下懸」遺跡と見られます。また、幅3メートルで深さ20センチほどの東西方向へ走る溝を一條確認しました。これはこれまで確認されていない形の溝で、古墳時代前半の土師器の壺、甕、高杯が出土しました。

## 万瀬遺跡

川右岸の東向きの斜面に位置しています。

調査では、

縄文時代の注口土器や深鉢の破片、叩石などが見つか

りました。縄文時代の遺構は確認できませんでした。

鎌倉時代のものとして、鍛冶炉を持つ竪穴状遺構が確認されています。そのほか井戸や土坑など、江戸時代に伴うものと思われます。出土した陶磁器や土器は、江戸時代後期のものですが、一部江戸時代初期まで遡るものもあります。

この集石遺構の最下部から被熱痕と敲打痕が残る台石が見つかりました。この台石は、鍛冶作業に伴うものと思われます。出土した陶磁器や土器は、江戸時代後期のものですが、一部江戸時代初期まで遡るものもあります。

また調査区の北西部に集石遺構が見つかりました。

この集石遺構の最下部から被熱痕と敲打痕が残る台石が見つかりました。

調査では、

縄文時代の注口土器や深鉢の破片、叩石などが見つか

りました。縄文時代の遺構は確認できませんでした。

鎌倉時代のものとして、鍛冶炉を持つ竪穴状遺構が確認されています。そのほか井戸や土坑など、江戸時代に伴うものと思われます。出土した陶磁器や土器は、江戸時代後期のものですが、一部江戸時代初期まで遡るものもあります。

この集石遺構の最下部から被熱痕と敲打痕が残る台石が見つかりました。

また調査区の北西部に集石遺構が見つかりました。

この集石遺構の最下部から被熱痕と敲打痕が残る台石が見つかりました。

この集石遺構の最下部から被熱痕と敲打痕が残る台石が見つかりました。

調査では、

縄文時代の注口土器や深鉢の破片、叩石などが見つか

りました。縄文時代の遺構は確認できませんでした。

鎌倉時代のものとして、鍛冶炉を持つ

## 展望「考古学セミナー愛知の考古学二〇\*」への思い

愛知県内で活動している考古学系研究会には【三河考古学研究会】【名古屋東アジア史研究会】があります。前者は西三河部会と東三河部会に分かれ、平成一七年五月から月例開催を続けています。後者も五一回を数えます。また【考古学フォーラム】もようやく再開しました。

研究会は事務局・発表者・参加者など多くの人々の共同作業です。しかも、関係者それぞれが平等かつ自主的に研究会の運営に携わる構えも必要です。その意味では、愛知県内に複数の研究会が並立することは、それだけ高い意識が共有され、また研究へのエネルギーが溢れていることを示しています。そして、重要な点は、研究会を支えている人たちの多くが埋蔵文化財保護行政に携わっていることです。

発掘調査は、大学が研究目的に小面積で行なうのも、行政が開発行為に伴って実施するのも、同様に遺跡を毀損し、破壊します。後者の場合、史跡整備でなければ発掘調査はあくまで次善の策に過ぎません。まず、発掘調査を回避することが最優先課題です。ど

うにも発掘調査止むなしとなつた時に、遺跡を記録の上で保存することが担当者の使命となります。が、そこに矛盾があります。

価値の高い記録を残す能力は、相当の発掘調査を経験しなければ身に付きません。試行錯誤を続け、自己嫌悪に陥りながら小さな破壊を積み重ねて大きな成果を得なければなりません。そのため、始まりが小さな破壊であっても、日々慣れてしまい大きな破壊に至る可能性もゼロではありません。さらに、報告書の内容が劣れば、遺跡の価値は無に帰すことになりかねません。

## 平成27年度 イベント案内

### 考古学観察日記

by 紗雪



<b>4</b>	<b>4 (土) 19 (日)</b>	 <b>埋蔵文化財新出土品展『やとみ新発見展』(しんはっけんでん)！』</b> <b>予約不要・参加費無料</b> 昨年度の発掘調査成果について、県内で一番早く展示解説を行います。 4月4日(土)・5日(日)は考古楽(こうごがく)緑日開催！
<b>5</b>		
<b>6</b>		
<b>7</b>	<b>下旬</b>	 <b>センター公開事業『パックヤードツアーと考古学体験』</b> 期間中、パックヤードツアーや考古学講座を開催。 <b>*パックヤードツアー &amp; 展示解説</b> <b>予約不要・参加費無料</b> 午前10時に2階受付前に集合 開催日：7月下旬・8月上旬・8月下旬
<b>8</b>	<b>上旬 ～ 下旬</b>	 <b>*考古学体験</b> <b>要予約・参加費無料</b> 拓本や実測図体験、ガラス玉作成などを埋開催 開催日：パックヤードツアー開催日の午後1時から午後3時
<b>9</b>	<b>5 (土) 19 (土)</b>	 <b>歴史講座『海部の考古学』</b> <b>予約不要・参加費無料</b> ☆設楽地域などの山間部の発掘調査成果を踏まえ、海部地域の考古学情報について、6人の講師が解説。 ○会場：埋蔵文化財調査センター2階研修室 時間：午前10時～12時
<b>10</b>	<b>3 (土) 17 (土) 31 (土)</b>	 <b>① 9月5日(土)：地形のこと</b> <b>鬼頭 剛</b> <b>② 9月19日(土)：縄文・弥生のこと</b> <b>宮腰健司</b> <b>③10月3日(土)：古墳のこと</b> <b>早野浩二</b> <b>④10月17日(土)：古代のこと</b> <b>永井邦仁</b> <b>⑤10月31日(土)：古代・中世のこと</b> <b>武部真木</b> <b>⑥11月14日(土)：戦国のこと</b> <b>鈴木正貴</b>
<b>11</b>	<b>28 (土) 29 (日)</b>	 <b>家族の絆作り事業『家族で歴史を体験発掘！』</b> <b>要予約</b> ☆遺跡の発掘体験を通じて、家族の絆を深めましょう！ ○開催時期：10月上旬 ○体験遺跡：未定
<b>12</b>		
<b>1</b>		
<b>2</b>		
<b>3</b>	<b>上旬</b>	 <b>発掘調査成果報告会『新設楽発見伝！』</b> <b>予約不要・参加費無料</b> 平成27年度の設楽地区の発掘調査成果の報告会です。 詳しくはHPにて。



どなたでも楽しんでいただけるイベント



大人を対象としたイベント